

企業名： オイレス工業

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

太平洋戦争へ向かおうとしていた時代に創業したこの会社は、戦時中の発達した工業技術を担う工業系の会社として発展していった。それから戦後も細かい工業製品を作り続け、車や建物の部品を作ってきた。

最近では電気自動車が普及しようとしている中、電気自動車の一つの課題である軽量化に向けて、自社のある製品の重量を50%以上も低減することに成功したり、近年の防災・減災意識の高まりにより、免振・制振装置の開発、製造に力を入れるなどと、近年の社会問題に対応するべく独自の路線で社会貢献できる製品を供給している。

さらに、この統合報告書全体からも分かるように、近年の課題であるSDGsに力をいれ、自社の取り組みや商品がいかに社会問題を意識し、問題の改善に役立つようになされているかに重点を置いている。

これらのことから、オイレス工業は持続可能な地球環境の実現に向けて、自社の事業そのものが高い社会貢献性を持ちながら、人々の安全を守る部品などを供給することを目指す姿として掲げていることが分かる。これは、オイレス工業の代表取締役社長である、飯田昌弥氏の記述からもこのような姿勢が分かる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

オイレス工業の競争優位性はやはり、車や建物を支える部品にあると思う。

近年電気自動車などの普及により、車体の進化が重要視されており、車体の部品を長年生産しているオイレス工業はその技術力においては他社よりも秀でていると考えることができる。

さらに、オイレス工業は耐震性、制振性にこだわった免振・制振装置のパイオニアとしての実績も持ち、自然災害(地震・強風)から人々の命や都市の安全を守るという重責を果たしている。これは地震の多い日本にとってとても重要なことであり、地震や津波からの安全を確保するという需要はなくなることはない。したがって、免振・制振装置の供給は滞ることがないと考えられるため、この点においては、他社よりも競争優位性があると言えるだろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

これからの未来も電気自動車やハイブリッド車など車の需要はなくならないと予想はできる。これからも引き続き技術の向上に努めれば、その市場はなくならないため、供給も止まることはなく、持続性があると言えるだろう。

さらに、建物の免振・制振装置も地震の多い日本では需要が高い。そのためこの市場もなくならないため供給も止まらないだろう。

しかし、どの分野においてもその技術の向上なしでは他社に追いつかれてしまうため、その当時の社会にあわせて技術を向上あってはじめて優位性が持続できるといえるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

オイレス工業は自動車の部品や建物の免振・制振装置などの開発、製造を行っているため、理系の工業系の専門職に就いている人々の方が人的資本の価値は高いと思う。そのような場で、自分の人的資本の価値を高めるには、他社との交渉や、新しい市場の獲得などの分野などで価値を高めるしかないと思う。したがって、この会社で自分の人的資本の価値を高めることは、不可能ではないが、狭い領域でしか難しいと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

今回、オイレス工業さんの統合報告書を読ませていただいたの感想を述べたいと思う。

まず、統合報告書全体を通して、どの取り組みがどの SDGs に当てはまっているかが毎回表記されていたため、分かりやすかったともに、SDGs への意識の高さを感じられてとてもよかった。

自分はオイレス工業さんについてなにも知らなかったため、何を製造し、販売しているかが分かりやすく紹介されていたのでとてもよかった。しかし、その紹介が、ページの中盤あたりにあったので、もっと序盤に紹介してもらえると、自分含めた、何も知らない人にとってはその後の報告書がもっと読みやすいただろうと感じた。